



# 謹賀新年 2026

平素より格別のお引き立てを賜りまして誠にありがとうございます。

心より御礼申し上げます。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



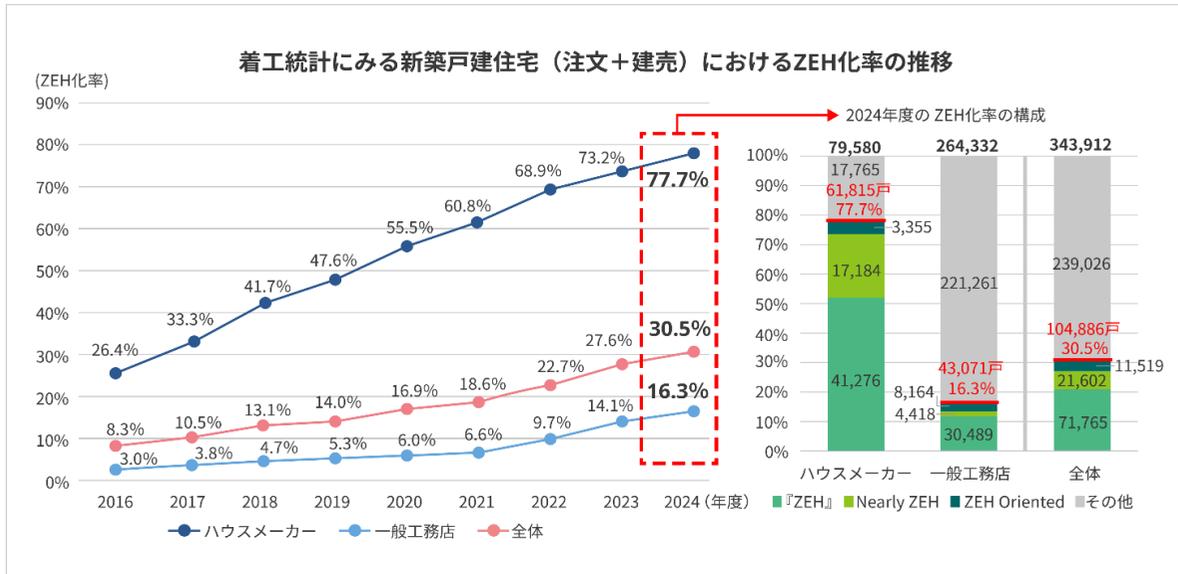
(一社)環境共創イニシアチブ

(出展・引用) <https://zehweb.jp/zehinfo/topics/20251222/>

## ZEH化率、着実に増加し3割台

(一社)環境共創イニシアチブの「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス実証事業 調査発表」によると、ZEHビルダーおよびZEHプランナーの登録事業者による新築戸建住宅のZEH化率が3割となった。ZEHビルダー/プランナーとは、ZEHの普及に努め、環境協創イニシアチブの登録を受けた住宅事業者のこと。登録事業者には、毎年度のZEH普及実績の開示が求められる。2024年度の普及実績を詳しくみると、戸建住宅全体の年間着工34万3,912戸に対し、ZEHビルダー/プランナーによるZEHシリーズ(『ZEH』、Nearly ZEH、ZEH Oriented)の合計供給戸数は10万4,886棟。

**ZEH化率は30.5%となり、前年度より2.9ポイント増加した。**



ハウスメーカーと一般工務店の普及実績には大きな差があり、ハウスメーカーの年間着工は7万9,780戸、この内ZEHシリーズは6万1,815戸。ZEH化率にして77.7%と8割に迫る。

(独)住宅金融支援機構(HousingTribuneOnline記事参

### フラット35、最頻金利2%超 制度変更後初

(独)住宅金融支援機構の発表によれば、借入期間21年以上、住宅価格に対する融資率9割以下の金利は年2.08%~年4.74%。フラット35を取り扱う金融機関が提示する金利の中で、最も多く設定される最頻金利は年2.08%となった。

【フラット35】借入期間：21年以上35年以下

融資率	金利の範囲	最も多い金利
9割以下	年2.080%~年4.740%	年2.080%
9割超	年2.190%~年4.850%	年2.190%

(出典・引用)

HousingTribuneOnline <https://htonline.sohjusha.co.jp/20260106-5/>

(一財)建設物価調査会

### 12月の建設資材物価、13カ月連続で上昇

建設物価調査会が公表した2025年12月分の「建設資材物価指数」(※)の動向は、建設総合の全国平均が144.2となり、前月比で0.2%(0.3ポイント)上昇。  
※速報値、2015年の平均を100として算出

13カ月連続での上伸となった。前年同月比では3.5%(4.8ポイント)の上昇となっている。



(出典・引用)

(一財)建設物価調査会 <https://www.kensetu-bukka.or.jp/newsrelease/17256>



## 住宅トレンド

# 建設現場の65%が「将来の住宅品質に不安」 技術継承「順調でない」7割、 今後、住宅価格に影響する可能性も

(出典・引用) クロスマイル㈱ <https://www.xmile.co.jp/news/release>

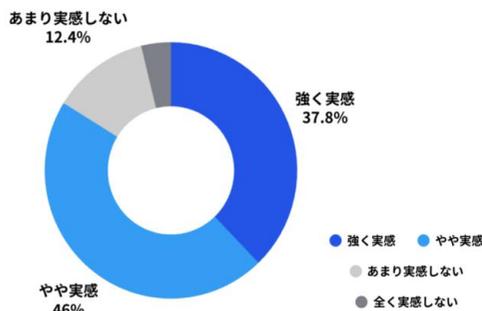
ノンデスク事業者向けの採用・キャリア支援サービス「クロスワーク」を提供するクロスマイル㈱(東京都新宿区)は、全国の建設業従事者を対象に、人材不足や技術継承に関する調査を行った。

(調査概要) ・方法: インターネット調査、ウェブアンケート調査 ・対象: 全国30代以上の建設業界従事者500名  
・期間: 2025年10月3日~2025年11月21日

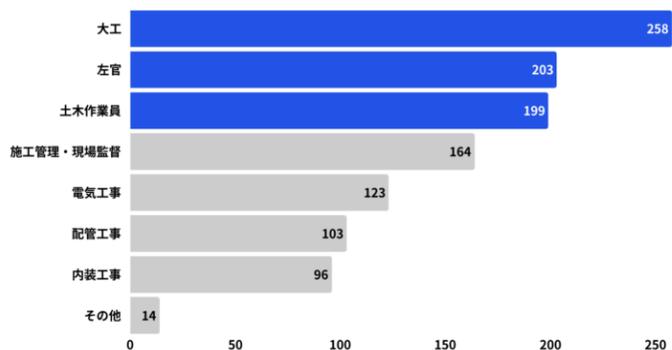
### ■ 現場の83.8%が人手不足を実感、大工・左官・土木作業員が足りない

建設現場で働く人の83.8%が、人手不足を「強く実感」「やや実感」していると回答。特に不足している職種としては、大工(258人、51.6%)、左官(203人、40.6%)、土木作業員(199人、39.8%)、施工管理・現場監督に多くの回答が集まった。

#### Q 現場の人手不足を実感していますか?



#### Q 特に不足していると感じる職種は?

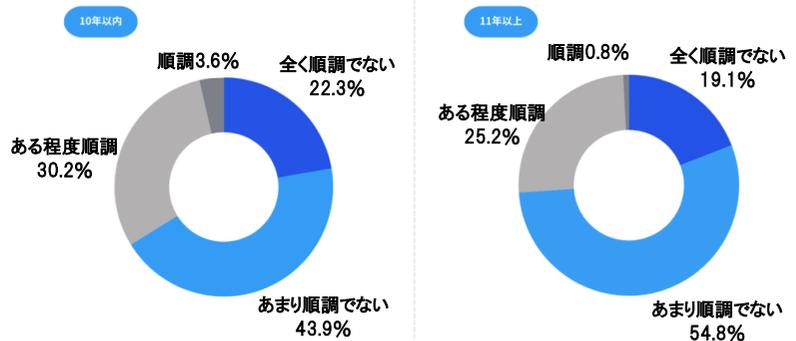


### ■ 建設現場の技術継承、7割超が「順調でない」

建設現場の技術継承について、「あまり順調でない」「全く順調でない」と回答した人は71.8%に上った。特に経験年数が長い層ほど危機感が強く、11~20年の中堅層や21年以上のベテラン層では、74%が技術継承が順調に進んでいないと回答。

**このままでは、長年培われてきた日本の高い建築技術が次世代に十分に引き継がれない可能性が懸念される。**

#### Q 経験年数別に見る技術継承への意識差

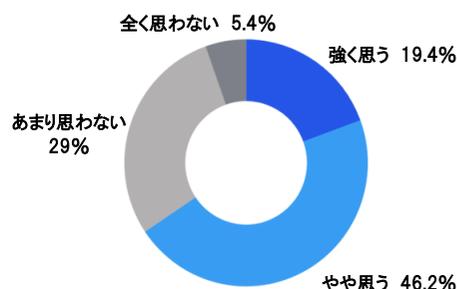


### ■ 65%が「将来的に住宅品質が下がる可能性」を感じている

建設現場で働く人の約65%が将来的に「資材不足や価格高騰により住宅品質が下がる可能性を感じる」と回答。

資材高騰や人手不足、技術継承の停滞が長期化した場合、品質維持のためのコストがかさみ、消費者負担(住宅価格)に跳ね返る懸念も否定できない。

#### Q 資材不足や価格高騰によって、住宅の品質や耐久性が下がるリスクがあると思いますか?



#### (クロスマイル㈱ CEOのコメント)

建設現場における人手不足、技能職の減少、技術継承の停滞、資材高騰といった課題が複合的に進行しており、将来的に住宅品質の維持が難しくなる可能性が示唆されました。これは、消費者にとっても無視できない影響を及ぼす恐れがあります。8割以上が実感する「現場の人手不足」は、建設技術を守り、日本の高い住宅品質を未来につなぐためにも、早急に取り組むべき課題です。